

令和 8 年 3 月 5 日

令和 7 年度学校評価結果報告書

桶川市立桶川西中学校

校長 竹花 功

1 目指す学校像 「きれいな環境の中で豊かな心と豊かな学びがある学校」

2 評価結果

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価 または 学校運営協議会における評価
			評価	説明及び学校の考え	
組織・運営	(1) 1	学校は、学校教育目標の達成に向けて、校務分掌等が機能し、組織的に取り組んでいる。	A 85%	校長のリーダーシップのもと、全職員が同じ方向を向いて教育活動を推進している。校務分掌は適切に機能している。業務改善について、やりがいの捉え方とのバランスが課題である。	「全職員が同じ方向を向いて教育活動を推進している」という状況は組織としては、申し分のない評価である。人事異動で職員が変わってもこの状況を維持できるように管理職はリーダーシップを発揮していただきたい。生徒指導に関しても、情報共有・迅速な初期対応、そして見届けを行い、生徒の健全育成を図ってほしい。
	(1) 3	学年は、学年目標に基づき、協働体制がとれている。	A 92%	生徒の情報は、常に学年で共有する体制ができており、生徒指導も学年として対応している。引き続き協働体制を強化し、迅速な対応、情報共有を図っていく。	
学習指導	(2) 4	生徒の学ぶ意欲を喚起するよう、わかる授業を行うようにしている。	A 86%	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業改善がなされている。個に応じた支援の在り方を意識しつつ生徒が主体となって学び合いながら課題を解決するような授業展開をさらに推進していく。	「授業の約束」をとおして、2分名着席など授業規律が守られている。授業の主体は、あくまでも生徒である。このことを忘れずに教員は日々授業改善に取り組み、さらなる学力向上を実現してほしい。また、低学力の生徒への対応も学校として取り組んでいただきたい。
	(2) 5	学習形態や指導法の工夫・改善を行い、学力向上に努めている。(ICTの活用を含む)	A 85%	授業に積極的に取り入れ、様々な活用効果が見られるようになってきた。効果的な ICT の活用について実践を共有するとともに、基礎的な力を付けることを大切にして学力向上につなげていく。	
生徒指導・教育相談	(3) 8	生徒の観察等を通じて不登校や問題行動、いじめ防止・早期発見に努めている。	A 90%	生徒指導委員会・教育相談部会を毎週実施することで、いじめの早期発見や迅速な対応を行ってきた。組織的対応や保護者との連携をさらに強化し、確実な生徒指導体制を確立していく。	「いじめの早期発見や迅速な対応を行ってきた。」とあるが、いじめの解消については、どうなっているのかを知りたいところである。いじめ対応とともに西中学校の課題の一つに不登校対応がある。様々な学びの方法を研究し、個々の生徒に適した学びを提供していくことも重要である。また、学校評価を子供たちに取り組ませることはよいことだと思うのでそのような取組を検討してほしい。
	(3) 9	地域や家庭との連携・協力を努め生徒の健全育成を推進している。	A 87%	下校時や放課後等の問題行動について、地域からの声に迅速に対応した。民生委員との懇談会を実施したり、学校運営委員会での助言を生かすなどしながら、保護者や地域の皆様とともに子供たちを育てることを大切にしたい。	

健康教育	(4)	部活動を積極的に推進し、継続的に運動する態度と能力を育成している。	A 80%	部活動をとおして、生徒が継続的に運動する態度と能力を育成すると同時に人間力も育んでいる。業務改善とバランスをとりながら限られた状況の中で充実させていくことが大切である。	部活動は、教育課程外の活動であるが、教育的効果大きい。そのことを全教員が理解しているかどうかは疑問である。今後、部活動が地域移行されていくが、生徒の健全な育成のために、現在できることに尽力していただきたい。
	(3)	食に関する指導を推進し、給食指導を充実させている。	A 88%	毎月の給食だよりの発行や食育に関する掲示、家庭科の授業等を充実させることにより、食に関する生徒の意識を高めることができた。食物アレルギー対応についても、確実に行うことができた。	
学習環境	(5)	きれいな学校を目指し清掃活動、ボランティア活動の向上に取り組んでいる。	A 81%	短時間で集中して行う無言清掃が定着し、生徒が主体的にきれいな学校づくりに取り組めるようになった。部活動や環境委員会の活動の中で、生徒が自ら気づき、落ち葉掃き等を行った。	無言清掃の取組も4年目となった。心を磨く意味でも貴重な取組となるので、継続して行ってほしい。また、生徒の自発的で主体的な活動でさらにきれいな学習環境を作り上げていただきたい。花植えや環境整備など部活や委員会の活動として生徒自身が行っていきとよい。
	(5)	花の栽培や植物の栽培等を通してよりよい環境づくりを行っている。	A 83%	学校応援団や生徒・保護者・地域の方の協力を得て除草活動を行うことができた。多くの方の協力があって教育活動が進められることについて感謝の思いを持つことができた。	
教職員の資質向上	(6)	校内研修の課題が設定され、計画的に実施されている。	B 73%	「個別最適な学び」と「協働的な学び」のある学習指導について、研究の2年目の取組として、授業公開を行い教科を超えてお互いの授業を参観することで学びを得ることができた。本発表に向けて今年得たものを生かしまとめていく。	校内研修の評価だけB評価となっている。A評価とならなかった理由は何なのかを分析する必要があると考える。教育基本法や教育公務員特例法によって、教員には、研修が義務付けられている。研修主題を、実態を捉えて設定し、自らの指導力を高める研修を実施していただきたい。
	(6)	学校は職員に服務規律の確保に努めている。	A 90%	毎月の倫理確立研修会や校長室だより・職員室だよりによる教職員事故に関する情報共有を通して、当事者意識を高めることができた。引き続き、教職員事故防止について、適切な時期に指示・指導を実施していく。	
家庭・地域との連携	(7)	各種便りを発行し理解や信頼が得られるようにしている。	A 95%	家庭・地域の理解を得られるように工夫した。「盗撮防止等ガイドライン」に沿って教育活動を行う中で、写真の撮影や掲載について慎重に進めつつ、いかに伝えていくか、バランスを図る必要がある。	「家庭・地域の理解を得られるように工夫した。」とあるが、具体的にどう工夫したのかを明確にして欲しい。また「…説明会等をとおして理解を得られるようにした。」とあるが、どのように実施したことにより、理解が得られたのかを明確にするとよい。それぞれ明らかにすることにより、よりよい取組となり、保護者や地域との充実した効果ある連携に繋がると考える。また、施設へのボランティア活動では中学生が絵やピアノなど特技を生かすことで喜ばれたという事例がある。地域とのつながりが生まれるきっかけは様々ある。
	(6)	積極的に学校公開、HP更新を行い理解と信頼を得るようにしている。	A 89%	授業参観、保護者会、学校行事やその説明会等をとおして理解を得られるようにした。さらに日常の様子を学校HPで伝えることで、学校理解につなげ信頼関係を構築した。	

*自己評価については、12月に全教職員で行いました。

*評価については、A…8割以上（4段階評価平均3.4以上）、B…6割以上（4段階平均2.8以上）で評価をしました。それ以下はCとなります。